



- シアヌークビル港経済特別区が竣工 1
- <港あれこれ④> 1
- 北九州市にカンボジアから友好勲章／水道事業の人材育成に貢献 2
- アンコールワット国際ハーフマラソン開催／体育事業支援のハート・オブ・ゴールドが協力 2
- <元気です！>北九「水道マン」海を越える／石井秀雄さん 3
- <広報班から> 3
- カンボジアの新聞から 4
- 今後の活動のご案内 4

シアヌークビル港経済特別区が竣工

カンボジア唯一の国際深海港シアヌークビル港に隣接する「シアヌークビル港経済特別区（SEZ）」が、完成する。12月中には竣工し、すべての区画で工場建設が可能になる。同SEZは2003年にJICAの調査に基づき提唱され、その後日本が政府開発援助（ODA）事業として全面的に支援。2009年10月から2年余りをかけ、高水準のインフラを完備した臨海経済特別区が建設された。

シアヌークビル港SEZの総面積は約70ヘクタール。シアヌークビル港のコンテナターミナルと直結しており、輸出入に便利だ。同港は、1990年代から日本政府がリハビリ、拡張事業に取り組み、今ではカンボジアの貿易を支える最重要拠点となっている。また、230キロ離れたプノンペンからは車で約3時間半、アジア開発銀行（ADB）によるリハビリが行われているカンボジア国鉄・南線の終点となるシアヌークビル駅にも隣接する計画で、同港を拠点とする物流ネットワークは大きな広がりを見せている。

現在、カンボジア国内のSEZは稼働中のものだけで6カ所。認可を受けたものは20カ所以上にのぼる。SEZ間の競争は激化しているが、公的機関（シアヌークビル港湾公社）が開発し、日本が全面支援したこのSEZへの期待は高い。担当者によれば、竣工が近づいた10月に入り来訪視察企業が増え、入居について具体的な問い合わせが相次いでいるという。JICAの事業担当者は「シアヌークビル港、同SEZとも、日本が長年支援してきた。SEZはぜひ日本企業でいっぱいになって欲しい」と、語る。

世界銀行によれば、カンボジアの2011年のGDP成長率は6%となる見込みで、洪水や欧州の経済不安にも負けず、引き続き順調な経済成長を続けている。それを牽引するのが対外輸出。2011年1月から9月までの輸出額は、前年同期比で4割増となった。港に隣接するSEZの誕生で、カンボジアの輸出産業がさらに強化、多様化され、この傾向にさらにはずみがつくものと期待されている。

港あれこれ ～シアヌークビル港経済特区から④

2011年12月31日、シアヌークビル港経済特別区（SEZ）のインフラ土木工事がいよいよ完工する。

思い起こせば2009年10月8日の工事開始から2年3か月の長い間、雨季の数か月は工事を妨げる豪雨に悩まされ、まさに「雨にも負けず風にも負けず」の精神で、シアヌークビル港湾公社（PAS）、大豊建設と日本工営が三位一体となって工事を遂行してきた。

2012年、くしくも辰年に「龍頭」と称されるシアヌークビルの地で、カンボジア経済を牽引するSEZがその頭をもたげる。JICAがその資金と技術と人材という三拍子で協力・支援してきたこのSEZに、数多くの日系企業をお迎えできる日が近づいており、既に構内では芝植えと植樹も始まり、碧（あお）い海と青空の下、その緑が美しく映えている二写真。



■ シアヌークビル港経済特区の取材をご希望の方は、広報班までお問い合わせください。
+855-23-211-673
cm_oso_rep@jica.go.jp
■ シアヌークビル港経済特区については
http://www.jica.go.jp/topics/2010/20100616_02.html
をご覧ください。

北九州市にカンボジアから友好勲章 水道事業の人材育成に貢献

カンボジアの発展に尽力した外国人に国王名で与えられる「友好勲章大十字章」が、このほど北九州市の北橋健治市長に贈られた。日本人の受賞は極めて珍しく、JICAとともに実施してきた水道事業における人材育成の成果が高く評価されたものだ。10月25日に開かれた北九州市の水道事業100周年記念式典で、授与式が行われた。

JICAによるカンボジアの水道事業支援は、1993年に実施されたプノンペン都上水整備のための調査から始まり、その後、浄水場など水道施設の改修を手掛けた。JICAは1999年よりプノンペン都水道公社に北九州市水道局からの専門家を派遣し、技術協力を開始。2003年からは施設や設備を適切に運用する人材の育成を目指す技術協力「水道事業人材育成プロジェクト」（フェーズ1）を開始した。2007年からは同プロジェクトのフェーズ2として、シェムリアップ、シアヌークビルなど8都市の水道局の人材育成に取り組んでいる。

これまで北九州市水道局がカンボジアに派遣した職員は延べ44人。日本の支援は、プノンペン都水道公社のエク・ソンチャン総裁の強いリーダーシップの下で、1993年には25%だった同都の水道普及率が90%を超えるなど目覚ましい成果をあげている。（P4「元気です!」に関連記事あり）



10月25日に北九州市で行われた友好勲章授与式の様子

アンコールワット国際ハーフマラソン開催 体育教育支援のハート・オブ・ゴールドが協力

12月4日、シェムリアップで第16回アンコールワット国際ハーフマラソンが開催された。本大会は世界遺産であるアンコール遺跡群の中を走る国際レースで、1996年にカンボジアの対人地雷被害者救済のため始まったチャリティー国際認定レース。

カンボジアオリンピック委員会と同陸上競技連盟が主催し、日本のNGOハート・オブ・ゴールド（HG）が第3回大会から独立運営を目指して運営に協力している。団体代表のオリンピックメダリスト有森裕子氏は、大会プロデューサーとしても貢献をしてきた。今年は過去最高の58カ国5,230人が参加し、東南アジア地域有数のマラソン大会となった。

HGはカンボジアで、マラソン事業の他にも、JICAが支援する草の根技術協力事業「カンボジア王国小学校体育科教育振興支援事業」を実施している。カンボジアの多くの地域では体育の時間に制服を着たまま形ばかりの体操を実施している学校も多く、子供たちは団体競技などのスポーツに慣れ親しむ機会が少ない。そこで、HGは体育に主眼を置いた情操教育の充実を図るため、本事業を通じて中央・地方教育行政官の体育担当者や教員を育成し、子供たちの身体の育成だけでなくルールを守る、協力して行動するといった社会性の育成も目指している。



アンコールワット国際ハーフマラソンで、HG有森裕子氏とゴールする倉津里沙青年海外協力隊員

■詳しくは以下のURLで。
ハート・オブ・ゴールド
<http://www.hofg.org/jp/>
草の根技術協力事業については
JICAプラザカンボジア <http://www.jicaplazacambodia.org/>

元気です！

北九「水道マン」海を越える 水道事業人材育成、石井秀雄さん

北九州市で生まれ育った石井秀雄さん（40）にとって、カンボジア勤務は予想もしない出来事だった。民間企業を経て北九州市に就職したのは26歳の時。他の多くの同僚がそうであるように「国内の転勤でさえいやだったから、故郷の職場を選んだ」。なのに、海を越えた。

6年前、水道事業人材育成プロジェクト（フェーズ1）でプノンペン水道公社に短期専門家として派遣され、3年前には同プロジェクトのフェーズ2で鉱工業エネルギー省へ短期派遣。そして今回はフェーズ2の長期専門家（チーフアドバイザー）として派遣されている。いつの間にか、国際協力が仕事になっていた。

石井さんたち北九州市水道局は、9割を超える水道普及率、日本並みに低い漏水率などで「プノンペンの奇跡」といわれるプノンペンの水道復興



8州の水道局職員に技術指導する石井さん（中央）=2010年8月、カンボット州で

事業を長年にわたり支援してきた。その貢献への感謝として、石井さんら10人が10月、カンボジア国王名で友好勲章を受けた。今、石井さんが取り組むのはプノンペン都での成果を、シエムリアップ、バタンバンなど地方8州に広げることだ。

「地方8州の施設は脆弱で故障が多く、職員たちの能力強化は向上したものの、プノンペン都水道公社との差は大きい」と、石井さんは言う。だが困難な仕事だからこそ、やりがいも感じる。「ずっと北九州の中にいたのではできない経験ができました。これはカンボジア人の人材育成であるだけでなく、われわれ北九州市職員の人材育成でもあるのです」。安全な水をいつでも、どこでも。それを実現することが「水道マン」の誇りだ。3月で任期を終えるが、この国の「水」の行方を、ずっと見守りたいと思っている。

“勲章を受け、これからは貢献していなくては、と身が引き締まりました（石井さん）”

広報班から

これまで二つに分かれていたJICAの研修事業（課題別研修及び青年研修）同窓会組織を統合し、新たに人材育成支援無償事業（JDS）帰国生を加えた「新生同窓会組織」の合意書調印式が12月9日プノンペンにて行われました。

課題別研修及び青年研修は、国づくりの担い手となる人材を日本各地のJICA国内機関で数日から数ヵ月受け入れ、地方自治体、大学、NGO等の協力の下、知識や技術の習得を支援する事業です。現在、課題別研修同窓会に約500名、青年研修同窓会に約750名が会員登録しています。一方JDSは、日本の大学院での専門知識の習得、研究、人的ネットワークを構築する機会を提供する制度で、カンボジアからはこれまで246名がこの制度を通じて修士号を取得し、帰国後は、カンボジアの社会・経済開発分野を中心に活躍しています。今回の統合により、多岐にわたる分野で活躍中の同窓生同士のネットワーク構築と同窓会組織の更なる活動促進が期待されます。（広報班 下地美歩子）



教育・青年・スポーツ省長官H.E. Pit Chamnanの立ち合いの下、組織統合の調印式が行われました=12月9日、プノンペン市内で

■掲載記事に関するお問い合わせは広報班までどうぞ。

+855-23-211-673

cm_oso_rep@jica.go.jp

カンボジアの新聞から (2011年11、12月)

■カンボジアの新聞から、政治、経済、社会などのニュースをダイジェストでお伝えします。

■洪水被害復興、「2億ドルが必要」

カンボジア政府は、9月から10月にかけてカンボジアを襲った大洪水のインフラ被害を回復するために「約2億ドルが必要」と発表した。5,400万ドルを2011年の予算から、9,000万ドルを2012年予算から充てる一方、約5,500万ドルの支援をアジア開発銀行（ADB）と交渉中としている。

■イオン、カンボジアにショッピングモールを出店

小売業大手のイオンが、プノンペンにショッピングモールを開業することを発表した。2012年に着工し、2014年に開店する予定。敷地面積は68,000㎡で、総合スーパー「イオン」を中心に展開する。1,500人から2,000人の雇用を見込んでいる。カンボジア進出の理由について、同社は「将来的な経済成長の期待が高い」としている。また、1990年代後半以降、植樹や学校建設、シエムリアップのシアヌーク・イオン博物館建設支援など、同社とカンボジアとのかかわりが深いことも進出の理由としている。

■世界銀行、カンボジアの経済成長率を6%と予測

世界銀行は11月22日に発表した経済展望レポートで、カンボジアの2011年の経済成長率が、3月に予測した6.8%を下回る6%になると予測した。農業セクターの成長率が当初予測の4%から1.5%に下がる見込みであることが、影響した。フン・セン首相は、世銀の下方修正に反発、「成長率は6.4%になる」との見方を示した。

■カンボジア・韓国貿易、前年比4割以上増

カンボジアの1月から9月の対韓国貿易額が、前年同期比で45%増であることが分かった。貿易額は3億8,700万ドルで、前年同期の2億6,700万ドルから大幅に伸びた。カンボジアから韓国への輸出品はゴムなどの農業製品が中心で約6,400万ドル。韓国からの輸入品は、電化製品、繊維製品、タバコなどで3億2,300万ドルにのぼる。

■三井住友銀行がプノンペンに駐在員事務所開設へ

三井住友銀行は12月12日、プノンペンに駐在員事務所を開設することを発表した。同月9日付でカンボジア国立銀行より基本認可を取得した。同社の発表によると、カンボジアは、「タイとベトナムの中間に位置する地理的優位性と比較的安価な労働力」から日系企業の関心は高く、今後もその企業進出が続くとしている。同社は、駐在員事務所の開設により、情報収集力および企業のサポート力強化に取り組む、としている。

発行責任者：

JICAカンボジア事務所

広報班

6th,7th,8th Floors,
Preah Norodom Blvd., Phnom
Penh, Cambodia
+855-23-211-673

cm_oso_rep@jica.go.jp

掲載記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。

We're on the Web!

ウェブサイトはこちら
<http://www.jica.go.jp/cambodia/index.html>

活動のご案内

今後のJICAの活動や国際的な動きをご紹介します。JICAカンボジア事務所では、こうした動向をプレスリリースでもご紹介をしております。ご利用ください。

<既報プレスリリース>

12月7日 オタワ条約（対人地雷禁止条約）締約国会議閉幕

<予定>

12月12日～13日 アンコール遺跡保存修復国際調整委員会第18回総会

12月21日 カンボジア新民法適用祝賀式典

12月末 シアヌークビル港経済特別区竣工

2012年

1月 カンボジア、ASEAN議長国就任

2月 全国結核有病率調査結果発表

3月 経済センサス確報結果発表